

# 政界の 断面

自民党の6派閥のうち岸田文雄首相(党総裁)が会長を務めていた「宏池会」など3派閥が解散を決める中、麻生太郎副総裁の「志公会」が22日までに存続の方針を固めた。宏池会を飛び出した総裁選出馬推薦人枠(20人)に足りない15人が「冷や飯部隊」とやゆされ旗揚げしてから四半世紀。麻生氏は周囲に「やましいことはしていないからやめない」と明かしている。

## ■一報はネット報道

麻生派関係者によると、麻生氏が岸田首相の宏池会解散の意向を知ったのはネットニュース。麻生氏から首相に電話して確認したという。訪米

# 「冷や飯部隊」の反論

## 志公会 存続方針 麻生氏と首相に亀裂

から帰国した21日夜に首相と会食。関係者によると、政治刷新本部に同派から鈴木馨祐氏(衆院7区)、牧島かれん氏(17区)らを送っていることを踏まえ「何のために会議を構えたのか。構えた本人(首



自民党政治刷新本部の会合で、岸田首相の冒頭あいさつの最中、険しい表情ですっと目を閉じていた麻生副総裁(右奥)  
22日、東京・永田町の党本部

相が分からなくしている。議員たちが国会開会前の貴重な時間を使って協力する意味がない」などと不快感あらわだったという。亀裂は決定的だ。

## ■やせ我慢が合言葉

麻生氏らが河野洋平氏を担ぎ1999年に発足した「大勇会(河野グループ)」が志公会の前身。93年の自民下野当時に党総裁を務め苦勞した河野氏こそ総理に就けるのが筋だとして、会長に加藤紘一元幹事長を充てる流れとなった。宏池会とたもとを分かった。

創設メンバーの1人、松本純・元国家公安委員長によれば「義理と人情とやせ我慢」が合言葉。「冷や飯軍団」とのレッテルに対し麻生氏は「軍団などんでもない。せいせい部隊だ」と冗談交じり

に混ぜ返していたという。推薦人枠に届かない規模であることから、報道各社が「派」ではなく「グループ」との呼称を使用した初のケースだ。逆境にあって麻生氏は若手議員による党内勉強会を応援し「義理と人情」を実践。この中に無派閥の小此木八郎氏らによる「学校で奉仕活動を教える会」があった。麻生氏は会費を払い運営を委ねたが「学校で教えたなら奉仕にならない」とのベテラン議員の横やりにより「会費も出さずに口を出すな」と皮肉を浴びせ一蹴するなど、若手の味方に立ち信頼を得たとされる。

## ■一緒にたへの怒り

森喜朗首相(当時)への批判と自民への逆風を巡る2001年の総裁選に小此木氏ら

若手有志に担がれ初出馬した。この時、首相に就いた小泉純一郎氏は「多勢につき自ら政策の旗を立てて戦った」と麻生氏を評価。政調会長に一本釣りしようとした議員の就任を所属派閥が「頭越し人事は困る」と難色を示すや、麻生氏を同会長に決めた。この人事をきっかけに外相などを経て麻生氏は首相に上り詰めた。「グループ」も「派」を名乗れる数に成長。50人を超え安倍派(清和政策研究会)に次ぐ党内2番目の規模となった。麻生氏と行動を共にしてきた松本氏は「冷や飯覚悟で飛び出した自分たちを、キックバック目当ての議員と一緒にたにされてはたまらないという怒りなのだろう」と麻生氏の思いを代弁した。

麻生氏は22日の政治刷新本部の会合に出席。岸田首相のあいさつの際には終始目をつむり、終了後も拍手をしなかった。(有吉敏、三木崇)